

科目名	聴力検査				授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間	(1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕									
聴覚機能の評価法の基礎について学ぶ。									
〔授業全体の内容の概要〕									
聴覚機能検査について、その理論を学び、各種検査方法を習得する。									
〔講師の実務経験〕									
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕									
<ul style="list-style-type: none"> ・各種の聴覚機能検査について学び、実施方法を習得する。 ・検査の選択と検査結果の解釈について学ぶ。 									
回数	講義内容								
1	標準純音聴力検査のおさらい								
2	マスキング ①								
3	マスキング ②								
4	マスキング ③								
5	マスキング ④								
6	マスキング ⑤								
7	マスキング ⑥								
8	聴性誘発反応 ①								
9	聴性誘発反応 ②								
10	聴性誘発反応 ③								
11	耳音響放射								
12	自記オージオメトリ、閾値上聴力検査								
13	機能性難聴の検査、耳鳴検査、選別聴力検査、その他								
14	聴覚機能検査の進め方①								
15	聴覚機能検査の進め方②、まとめ								
【 準備学習・時間外学習 】									
【 使用テキスト 】									
書籍名					著者名			出版社	
聴覚検査の実際 改訂4版								南山堂	
【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】									
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。									